



Simply Better Connections

CLIコマンドガイド

AP206 / AP212

DSP搭載パワーアンプ

本書 日本語マニュアルについて

この日本語マニュアルはATEN International Co., Ltdが作成している英語版ユーザーマニュアルを、日本国内のお客様が製品をご使用になる上での便宜を図るため、ATENジャパン株式会社にて機械翻訳ベースで作成したドキュメントです。用語・表現などは公開前に人為的な修正を加えておりますが、若干の表記ゆれなどが残っている可能性がございますので、ご理解願います。また、グローバル共通のマニュアルを翻訳したドキュメントであるため、日本国内でのお取り扱いがない機種が含まれている場合がありますことを、ご了承ください。

製品の取扱説明書としての整合性は英語版ユーザーマニュアルに準じますが、万が一内容に不備・誤りなどがございましたら、誠にお手数ですが、ATENジャパン株式会社までお問い合わせさせていただきますよう、お願い申し上げます。

本ガイドについて

AP206/AP212は、PCまたはコントロールシステムなど接続しているデバイスから、RS-232またはTelnetコマンド経由で設定・制御できます。このガイドでは、RS-232/Telnet コマンドを使って、AP206/AP212を操作する方法について説明します。

マニュアルは下記のとおり構成されています。

第1章 リモートターミナル操作: 前提条件、Telnetセッションの開始方法、また、RS-232コマンドを送信するためのハイパーターミナル・セッションの確立方法について説明します。

第2章 CLIコマンド: AP206/AP212のコマンド構文と制御コマンドについて説明します。

注意:

- 製品本体や接続機器に対して損傷を与えないように、必ず、本マニュアルに記載されている内容に従ってセットアップや操作を行ってください。
 - 本書の公開後に、製品に対する機能の追加・改良・削除によって、マニュアルの内容を更新する場合があります。最新のユーザーマニュアルについては、<http://www.aten.com/global/en/>にてご確認ください。
-

目次

| | |
|----------------------------------|----------|
| このガイドについて..... | i |
| 目次..... | ii |
| マニュアル表記について..... | iii |
| | |
| 第1章 リモートターミナル操作 | 1 |
| 概要..... | 1 |
| セットアップ..... | 1 |
| AP206/AP212への接続 (Telnet経由) | 2 |
| AP206/AP212への接続 (RS-232経由)..... | 4 |
| | |
| 第2章 CLIコマンド..... | 5 |
| 概要..... | 5 |
| コマンド構文 | 5 |
| コマンド一覧 | 6 |
| チャンネル番号 | 6 |
| read..... | 7 |
| reboot | 8 |
| standbyon..... | 9 |
| profile f[n] load..... | 10 |
| volume | 11 |
| mute..... | 13 |

マニュアル表記について

このマニュアルでは、次の規則を使用します。

[] 入力するキーを示します。例えば[Enter]はEnterキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記しています。

1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順ではありません。

> 矢印は操作の手順を示します。矢印は操作の手順を示します。例えば、「スタート」>「実行」は「スタート」メニューを開き、「実行」を選択します。



重要な情報です。

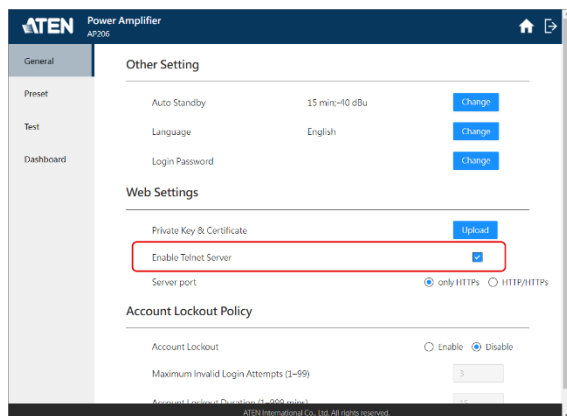
第1章 リモートターミナル操作

概要

DSP搭載/パワーアンプ AP206/AP212は、あらかじめブラウザから設定を変更することでRS-232/Telnetによる操作できます。設定後、制御機器またはPCからの操作が可能になります。

セットアップ

まずはブラウザでAP206/AP212にログインして、「設定」画面 > 「一般」タブ > 「ウェブ設定」で、「Telnetサーバーを有効にする」のチェックボックスをオンにします。



注意:

上図は参考用です。ウェブコンソールの実際の設定画面は若干異なる場合があります。

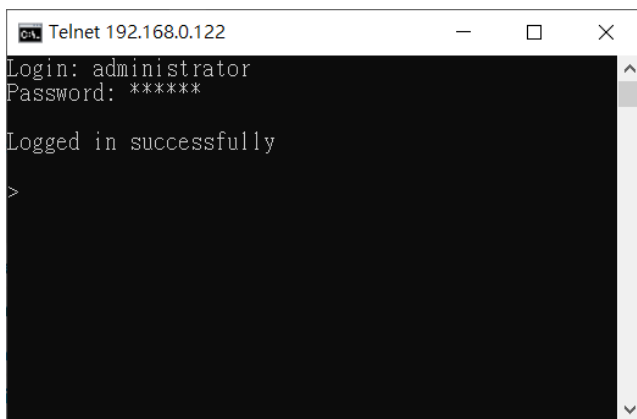
AP206/AP212への接続(Telnet経由)

AP206/AP212とのTelnetセッションを確立するには、次に従って操作します。

1. PCまたはコントロールシステムを、AP206/AP212と同じネットワークに接続します。
2. PCのコマンドプロンプトを起動します。
3. コマンドライン・インタープリターにおいて、次の方法でAP206/AP212のIPアドレスを入力します。Window10以降のPCではtelnetクライアントは標準でインストールされていないため、別途インストールしてください。

```
telnet [IPアドレス]
```

4. **[Enter]**キーを押します。そうすると、ログイン画面が表示されます。
5. ログインプロンプトで、AP206/AP212のブラウザでログインするユーザーのユーザーネーム(初期設定であればadministratorまたはoperator)とパスワードを入力します。**[Enter]**を押して送信します。



```
Telnet 192.168.0.122
Login: administrator
Password: *****
Logged in successfully
>
```

注意:

ログインユーザーのユーザーネームは、すべて小文字にする必要があります。

6. AP206/AP212とセッションが確立されると、コマンドでAP206/AP212を制御・設定できます。コマンドの詳細については、次を参照してください。

- p.5「コマンド構文」
- p.6「コマンド一覧」

注意:

既にログインしているユーザーネームで多重ログインすると、最後にログインした通信だけが有効になり、前にログインしたセッションは切断されます。

AP206/AP212への接続(RS-232経由)

1. PCまたはコントロールシステムを、AP206/AP212背面のRS-232ポート(3極ユーロブロック接続)に接続します。
2. PCであればPuttyやTeratermなどシリアル通信に対応しているクライアントアプリをダウンロードしてインストールします。
3. アプリを実行したら、以下の通信設定をします。
 - ボーレート:19200
 - データビット:8
 - ストップビット:1
 - パリティ:なし
 - フロー制御:なし
4. AP206/AP212と通信開始すると、コマンドでAP206/AP212 を操作・設定できます。コマンドの詳細については、次を参照してください。
 - p.5「コマンド構文」
 - p.6「コマンド一覧」

注意:

製品本体がスタンバイモードの場合、RS-232は通信に反応しません。

第2章 CLIコマンド

概要

AP206 / AP212は、PCまたはコントロールシステムなどからRS-232またはTelnetコマンドで操作・設定ができます。この章では、操作と設定の各コマンドについて説明します。

コマンド構文

- コマンドの一般的な形式は、次のとおりです。

コマンド パラメーター <引数> [1|2|3]

| 表記 | 説明 |
|--------|--|
| コマンド | コマンドの名前は太字で表示されます。 |
| パラメーター | パラメーターの名前です。 |
| <引数> | 値の名前、またはユーザーが指定しなければならない情報です。カッコ内の情報を入力するだけで、カッコ自体は入力しません。 |
| [] | オプション項目です。カッコ内の情報を入力するだけで、カッコ自体は入力しません。 |
| { } | ユーザーが選択しなければならないオプションです。 |
| | コマンドラインで、相互に排他的な2つ以上の選択肢を示します。コマンドラインでは、オプションを1つだけ入力します。記号は入力しません。 |

- 2つ以上のパラメーターがある場合、これらのパラメーターの順序は演算結果に影響しません。例えば、次のコマンドはどちらも同じタスクを実行します。

コマンド名 + パラメーター1 + パラメーター2

コマンド名 + パラメーター2 + パラメーター1

コマンド一覧

以下のコマンドを使用すると、TelnetまたはRS-232経由でAP206/AP212を制御・設定できます。TelnetまたはRS-232の接続方法については、p.2「AP206/AP212への接続(Telnet経由)」およびp.4「AP206/AP212への接続(RS-232経由)」を参照してください。

チャンネル番号

ここで各コマンドで共通して使用するパラメーターを説明します。スピーカーごとに設定をするコマンドを使用する場合は、次のようにコマンド入力と組み合わせて使用してください。

例えばスピーカー出力チャンネルAの音量を設定したい場合はコマンドと一緒に「o1」のように指定します。ライン出力チャンネル2の設定をするなら「o4」と入力すると各出力の設定ができます。

| チャンネル | チャンネル番号 | 引数値 |
|---------|----------|-----|
| スピーカー出力 | | |
| チャンネルA | Output 1 | 1 |
| チャンネルB | Output 2 | 2 |
| ライン出力 | | |
| チャンネル1 | Output 3 | 3 |
| チャンネル2 | Output 4 | 4 |

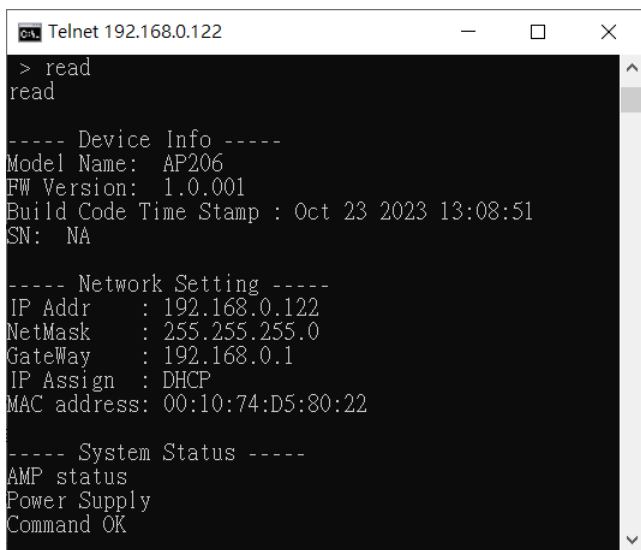
read

- 機能

デバイス情報、ネットワーク設定、およびシステム状態を表示します。

- コマンド入力例

read



```

Telnet 192.168.0.122
> read
read

---- Device Info ----
Model Name: AP206
FW Version: 1.0.001
Build Code Time Stamp : Oct 23 2023 13:08:51
SN: NA

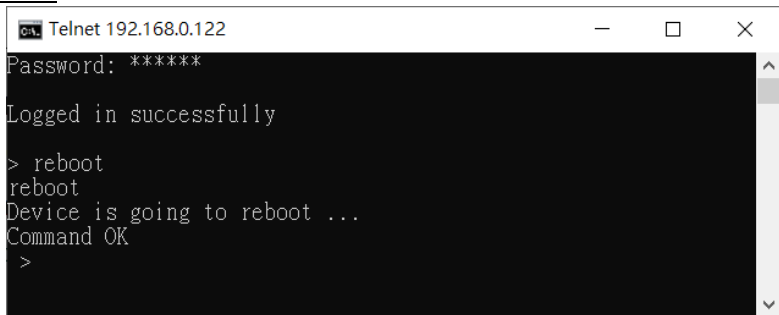
---- Network Setting ----
IP Addr   : 192.168.0.122
NetMask   : 255.255.255.0
GateWay   : 192.168.0.1
IP Assign : DHCP
MAC address: 00:10:74:D5:80:22

---- System Status ----
AMP status
Power Supply
Command OK
```

注意:

上図は参考用です。実際のコマンドの応答は若干異なる場合があります。

reboot

A screenshot of a Telnet window titled "Telnet 192.168.0.122". The window has standard Windows window controls (minimize, maximize, close) in the top right corner. The main area is a black terminal with white text. The text shows a password prompt "Password: *****", a successful login message "Logged in successfully", and a command prompt ">". The user enters "reboot", and the terminal displays "reboot", "Device is going to reboot ...", "Command OK", and another prompt ">".

```
Telnet 192.168.0.122
Password: *****
Logged in successfully
> reboot
reboot
Device is going to reboot ...
Command OK
>
```

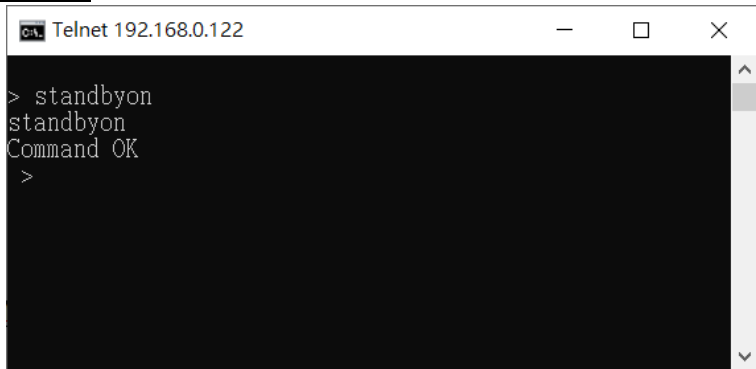
- **機能**

主電源は落とさずにAP206 / AP212本体を再起動します。一時的にネットワーク機能に障害があつて通信出来なくなつてしまつた場合などはこちらの方法で復旧できるかお試しく下さい。

- **構文**

reboot

standbyon



```
Telnet 192.168.0.122
> standbyon
standbyon
Command OK
>
```

- **機能**

製品本体を手動でスタンバイモード(低消費電力)にします。入力音声が一24dBuか、ブラウザからリモートアクセスするとスタンバイから解除されます。

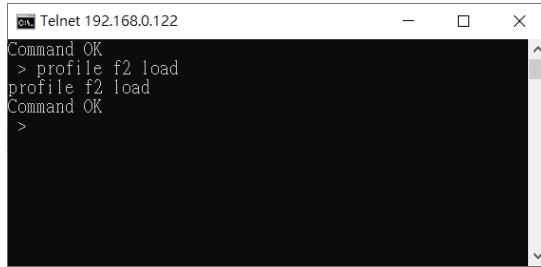
- **コマンド入力例**

standbyon

注意:

製品本体がスタンバイモード時は、RS-232のコマンド入力は受け付けません。スタンバイ時に操作したい場合は、一度スタンバイ解除をするかtelnetにて操作を行ってください。

profile f[n] load

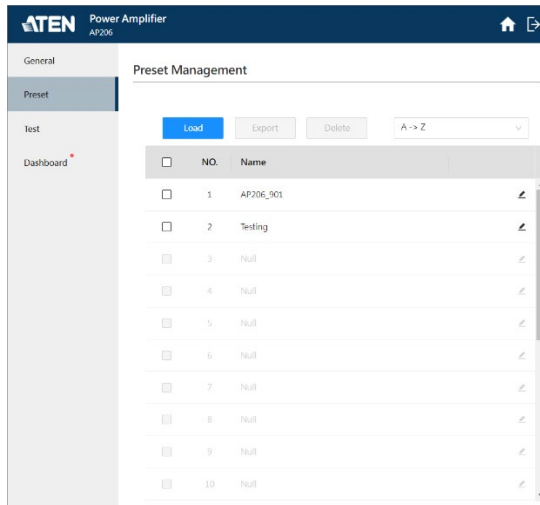


```
Telnet 192.168.0.122
Command OK
> profile f2 load
profile f2 load
Command OK
>
```

◆ 機能

ブラウザであらかじめ登録したプリセットを適用します。

[n]の値は、AP206/AP212のブラウザで登録したプリセット番号です。使用可能な番号の範囲は1～20です。



◆ コマンド構文

profile f[n] load

◆ コマンド入力例

profile f2 load

volume

```
Telnet 192.168.0.122
> volume
volume
Audio output channel 01:-50.000000 dB
Audio output channel 02:-50.000000 dB
Audio output channel 03:-2.000000 dB
Audio output channel 04:-2.000000 dB
Command OK
>
```

機能・構文

| 構文 | 機能 |
|----------------------------|-----------------------|
| volume | 各チャンネルの現在の出力音量を表示します。 |
| volume o[n] v[x] | 指定したチャンネルの出力音量を調節します。 |
| volume o[n] step[s] | 出力音量を0.5dB単位で増減します。 |

パラメーター

- o[n]:
音量調整する出力チャンネルを指定します。詳細は、p.6「チャンネル番号」を参照してください。
- v[x]:
音量をdBFS単位で指定します。

```
Telnet 192.168.0.122
Login: administrator
Password: *****
Logged in successfully

> volume o1 v-50
volume o1 v-50
Audio output channel 01:-50.000000 dB
Command OK
>
```

注意:

1. スピーカー出力チャンネルAとチャンネルBの使用可能な範囲は、-50～12dBと-90dBです。
 2. ライン出力チャンネル1とチャンネル2の使用可能な範囲は、-80～6dBおよび-90dBです。
-

- **step[s]:**
一定の音量ボリューム間隔で調整する時に使用します。1ステップは0.5dBです。

- **コマンド入力例**

volume o2 v-50 (スピーカー出力2を-50dBFSに設定) または

volume o4 step-2 (ライン出力2の音量を2段階落とす)



```
Telnet 192.168.0.122
> volume o4 step-2
volume o4 step-2
Audio output channel 04:-2.000000 dB
Command OK
>
```

mute

```
Telnet 192.168.0.122
> mute
mute
Audio output channel 01 mute off
Audio output channel 02 mute off
Audio output channel 03 mute off
Audio output channel 04 mute off
Command OK
>
```

機能・構文

| 構文 | 機能 |
|----------------------|-----------------------|
| mute | 各チャンネルのミュート状態を表示します。 |
| mute o[n] on | 指定したチャンネルをミュートします。 |
| mute o[n] off | 指定したチャンネルのミュートを解除します。 |

パラメーター

- o[n]:
チャンネルを1桁の数字で指定します。詳細は、p.6「チャンネル番号」を参照してください。
- on: 指定したチャンネルの音声出力を止めます(ミュートします)。
- off: 指定したチャンネルのミュートを解除します。

例

mute o2 on (スピーカー出力2を止める)

```
Telnet 192.168.0.122
> mute o2 on
mute o2 on
Command OK
>
```